

ひき蛙の保護

(24年12月)

和田 宏

水辺の小生物を「保護しよう」と聞いたらメダカやイモリを思い浮かべるのではないのでしょうか、水辺の昆虫と聞けばホタルやミズスマシ、ゲンゴローですね、本題のひき蛙は両生類です。

ヒキガエルは近年人里から姿を消しつつあります、「雨の日に玄関灯の下で見た」と昨日のここのように話す人は珍しくありませんがよく聞いてみるとずいぶん昔の経験なのです、少なくなった理由を数え上げれば切りがありませんが、主な理由の一つは、繁殖のための池が少なくなったことだと思います、それだったら池を作ればよいこととなりますが本当にそうなのでしょうか。

池の話に直進するのは無理がありますね、まずはヒキガエルに就いておさらいをしましょう、蛙を飼育して動物園のように見物できる施設があります、観覧するのが一番ですがホームページをご覧ください。

長野県には <http://www.geocities.jp/caerucan/>

静岡県には <http://www.marinepark.jp/timeivent.html>

カバやワニの保護と違って貴方も参画できる世界がありそうです。

保護したいと考えさせる理由の一つは自然界の食物連鎖の中の役割が大切だと考えるからです、ヒキガエルの上位には鷹をはじめとする猛禽類、イタチやキツネ等の小動物がいて、ヒキガエルの餌になるのは成長に合わせてアリ、団子虫、バッタ、ナメクジ、等でしょう、ファーブルの昆虫記には詳しく述べられています。

さて池を作ったらどうなるのか？

ヒキガエルの生涯は、早春に池に産み落とされた卵がオタマジャクシになって一カ月少々にチビ蛙になるや直ぐ山や草原に移住して1-2年で繁殖のために池に帰ってきます、このときだけ池に帰ってくるのです、カエルの名前は「帰る」に由来します、殿様ガエルがずっと水田に暮らしているのと違います、

徳利をぶら下げたタヌキ、招き猫、に比べると多くはありませんが蛙の置物も良く見かけます、旅に出た家族が無事に帰るように、出て行ったお金が返って来るようにとの願いが込められているのだと思います。

水槽ではなく池が求められていますの違いは何でしょう、巨大水槽もあれば小さな池もあります、容器の縁と地面の高さが蛙の出入りに支障が無ければ、(3cm以内ならば)池です。

広さはプラスチックの衣装ケース(40cm X 70cm)で充分です、庭に埋めて水を張ればOKです、外の蛇口に近いところで花壇の邪魔にならないとこ

ろを選んで雨が降った時の放水路も想定して計画しましょう、穴を掘り始めると掘り上げる土の量に驚かされます予想の二倍以上です、移動場所を考えておくべきでした。

池を仮設置してみると不安なのは水平度、300cm位の水準器があればよし、なければプラスチック容器の底から2cmのところの数ヶ所マジックインキで線を引いておき、濁り水を1cm入れて検査できます。容器の縁は地面と同じか高くして3cmにしましょう、放水ルートは低めを狙って、水を入れながら外側に土と水を入れてしっかり固まるようにしましょう、作業を進めながら経験豊かな貴方は突然不安に襲われます、池の水が緑色に濁って透明度が失われたらどのようにして掃除をするのか、お風呂の水槽は底に栓があるからいいけど、御心配は尤もですが、田んぼの水の透明さがヒントです、畑の土、又は庭の土を3cm入れてみましょう、これで1年を通じてバッチリです、



写真1

これで受け入れ態勢は整いました、あとはお客さん次第です。

早春に、早ければ2月下旬、遅くとも3月末までに低いけれども嬉しそうな声が聞こえてきたら、それはオスが呼ぶ声です、メスが1-2匹オスが4-5匹集まれば蛙合戦が始まります、一両日騒ぐと静かになって池にはゼリー状の卵紐が沈んでいます、黒い点々は500でしょうか800でしょうか3週間位するとすべてオタマジックシになります。これからは酸素量に気を配ります、水草の量にもよりますが空気を送り込む電動ブクブクを使えば大丈夫、元気に泳ぎ回るオタマジックシの天敵はヤゴ、ザリガニ、小鳥等ですが気にしません、4週間位で身長7mmの蛙になって肺呼吸できるように進化します、

数百のちび蛙が池で成長し始めたら大変なことです、庭中蛙だらけも困ります、しかし心配無用、蛙は一斉に旅に出て姿を消してしまいます、少しは残ってほしいと願っても駄目です、次にお目にかかれるのは来年の繁殖期なのです。その間ヒキガエルはアリから始まって団子虫、幼い昆虫、バッタを食べて成長して冬眠します、

トノサマガエルは生まれてから冬眠まで田んぼで生活しています、モリアオガエルは蛙なると樹上で暮らすのでしょう、蛙の生涯はバラエティーに富んでいます、そんな中でヒキガエルは旅に出て帰ってくるのです、30年掛けて帰ってくるウミガメ、4年掛けて帰ってくる鮭の縮小版です。

私は保護活動を10年以上続けていますが、やったからと言って増えません、天敵の数及び蛙の餌の数とのバランスでしょうか。

どうしても自然の産卵を観察したくなったら、3月に東三河では葦毛湿原、に足を運びましょう、沢山のひき蛙が集まり蛙合戦が繰り広げられます、木道を歩くと無数の卵、鷹の食べ残しのひき蛙を見る事が出来ます、しばらくするとオタマジャクシと食虫植物毛氈苔のシーズンです。

毎月第一日曜が観察会で説明も聞けます。

浜松より東では春野町の新宮池が観察ポイントです、密度は葦毛湿原以上です。蛙合戦よりちびガエルの旅立ちが壮観だと聞いています。

写真1 水槽から旅立とうとする体長7mmのチビ蛙、写真2 新宮池の蛙合戦。



写真2

以上